

栃木県日中友好協会を通じた浙江省訪問について

上三川町 総務課 鹿島龍
子ども家庭課 茂木梢
生涯学習課 鈴木英美
上三川中学校 藤谷和博

栃木県日中友好協会より浙江省との友好30周年の節目に訪問団員の要請があり、上三川町から4名の職員が参加させていただきました。訪問先は浙江省の嘉興市、杭州市、金華市、衢州市を一週間かけて回りました。この訪中を通じて私たちが学んだことや感じたことについて大きく分けて3つご報告いたします。

まず1つ目は学校教育についてです。今回の訪中時、8月に上三川町を訪れた浙江省杭州市立第十三中学校の副校長先生とお会いし、教育の取り組みについて驚くべき内容を聞きました。それは十三中学校では夜の8時半まで自習時間を設けているということです。以前から中国では教育に力を入れていると聞いたことがありましたが、中学生の頃から学ぶことへの意識付けが強く行われていることを再認識しました。また、勉強ができる子とできない子の格差が生まれてしまうことについて、どのような取り組みをされているか聞いたところ、親子授業などを通して楽しみながら学習理解を深める取り組みや、できた事をとにかく褒め、学ぶことへの拒否感をなくすようにするなど、3,000人規模の学校でも1人1人に対しての細やかなサポート体制があることを知りました。学校での問題についても聞いたところ、子どもと両親の関係性や、子どもと教師の関係性などに問題を抱えていることを聞き、教育内容や規模が違っていても日本と共通している部分があることを知りました。時間の都合上、多くの内容を聞くことは出来ませんでした。教師が生徒を想う気持ちや、保護者が自分の子どもを思う気持ちは日本も中国も同じだと感じました。

2つ目は国際交流についてです。今回、浙江師範大学、浙江工業大学、衢州学院の3つの大学に訪問する機会がありましたが、その中でも浙江師範大学との交流が印象に残っています。浙江師範大学では教員を目指す学生が多く在籍し、日本語専攻の学科もあります。当日の主な交流内容としては学校紹介:中国側のパフォーマンス披露(中国楽器の演奏など)、日本側のパフォーマンス披露(書道、合唱など)、日本側のパフォーマンス披露(書道、合唱など)、グループ毎の交流、敷地内散策などです。まず到着して驚いたのは学校の広さです。在籍する生徒数は約3万人、多くの校舎、宿舎、運動施設などがあり、校内の移動に電動バイクを利用せざるを得ない広さで1つの町の様でした。広さの理由は学生数の多さもありますが、学生たちの生活が敷地内で完結し、勉学に集中できるよう設計しているとのことでした。

また、日本語レベルの高さにも驚きました。今回交流した学生の多くが日本語を専攻していましたがほとんどの人が日本国内で話す感覚で会話ができるレベルでした。それぞれ学び始めたきっかけは異なりますが、日本のアニメやゲーム、歌手などに興味を持ったこ

とや、大学受験の際に日本語を選択できることなどが理由にあるそうです。地域差はあると思いますが、近年の中国では日本語を学ぶ機会が多くなってきていると感じました。

3つ目に「折り紙」の持つ可能性についてです。上-川町では現在「ORIGAMI のまち かみのかわ」と称し、町の PR を進めています。折り紙は年齢や性別、国籍、障がいの有無などを問わず、誰もが親しみ楽しむことができるツールです。今回の訪中が決まり、町から行く私たちに何ができるのか考えた際、折り紙を持っていくことを決め、中国政府との会食時や、現地大学生との交流会の際に活用しました。時間がない時には事前に折った作品を渡し、時間がある時には一緒にパンダを折ったりしました。結果として、言葉の壁を越え、折り紙を通じてみんなが笑顔になり、日中友好を深めることができたと感じています。次回交流する機会があれば、折り紙を通じて中国の文化についても詳しく聞いてみたいと思います。

最後になりますが浙江省に 1 週間訪問するにあたり、中国政府、栃木県日中友好協会、場の上司・同僚、家族など多く方のサポートがあり、参加することができました。この場を借りて御礼申し上げます。今回の貴重な経験をきっかけに日中友好並びに今後の国際交流につなげて行きたいと思います。

中国の旅を終えて

木下正喬

「ねえ、面白そうだからこれ行ってみようよ」

とある昼下がりに、妻がそう言った。

俺はまあいつもの病気が始まったかと思い、昼ごはんも終わったところ下がってくる顔と闘うのに忙しいので、うーんそうだなと適当に返事をした。

それがまさかこの壮大な物語の始まりになろうとは思ってもしなかった。

しばらくしてから妻が中国に行くことが決まったと大喜びをしていた。

聞けば浙江省とかいうところへ招待されて行けるらしい。

そうか、楽しんできてな。

そう言って少し暑くなってきた初夏の頃、クーラーでもつけて優雅に昼寝でも決め込むか、これが大人の特権だよなどと席を立ったところ俺も一緒に件の浙江省とやらへ行くのだと言われた。

なんだその話は、おいおい初耳だぞ。

そこからは大変だった、何を隠そう別に隠す気はないが俺は中国語が喋れない。

必死の思いで20分くらいかけて你好、谢谢、吃饭了吗？、そして加油をマスターした。

続いて現代の叡智インターネットを使い、浙江省という場所について調べてみることにした。

タッターンとエンターキーを強めに叩くとすぐに紹興酒と金華ハムが有名だということがわかった。

よーしいい子だ、ここはきっと何を食べても美味しいに違いない。

そこから夏が過ぎ、ようやく秋に入るかというところでいよいよ本番の日がやってきた。

少し肌寒い小雨の降る中、見知らぬ大学生の群れに囲まれて宇都宮駅からバスに乗り成田空港へと向かい、そこから飛行機で上海へと降り立った。

上海か、きっとここでは上海蟹が食べられるんだろうなとか思っていたがそんなこともなく、すぐさまバスに揺られて浙江省は嘉興市へと連れて行かれた。

嘉興市ではお約束の中華テーブルにつき、見たこともない料理を食べることになったが何を食べても美味しい、こいつはやられた。

そこでは人生初の生の枣を食べ、さらにこの地で最初の友人「テヅ」と知り合った。

彼は現地に留学している日本人で、見た目は随分貫禄があるなと思ったが中身はまだまだ大学一年生で笑顔のカワイイやつだった。

さらにはギターもうまいし、道中俺の小芝居にも付き合ってくれるしで全く最高かよ。

嘉興市で古い街並みを再現したような綺麗な宿に泊まった翌日は観光をした後、杭州市に入り浙江工業大学の生徒たちと仲良くなった。

「郭くん」と「王くん」だ。

郭くんには好吃の発音の仕方をはじめ、筷子、勺子、叉子等テーブルの上の世界の呼び名を教わった、彼は俺の中国語の師匠だ。

王くんにはステージ上でのラテンダンスに最高に痺れさせられた。

それは俺の心の奥底で燻っていたダンス魂に再び火を点けるには十分過ぎる熱量で、次は俺たちで世界ってホールを沸かしてやろうぜと誓い合う最高のライバルとなった。

杭州市で二泊した後金華市へと向かい、今度は浙江師範大学の生徒たちと喋ることとなった。

そこで出会ったのは筋肉連中だ。

日中友好青年団という括りで今回の旅に参加はしているものの、お前は青年か？と聞かれると心は少年だが体は中年というなんとも情けない腹回りとなり、よーしおじさんそろそろダイエット頑張っちゃうぞーと筋トレを始めたところで出会った彼らの引き締まった肉体と笑顔がとんでもなく眩しかった。

さらに喋ってみると話も面白くて頭もいい、中国語はもちろんのこと日本語もバリバリで、俺はすっかり異国の地で中国人と喋っていることを完全に忘れていた。

ただそんな彼らも先の未来は不安があるらしく、いろんな話を聞いた。

だけどそれは多分全部杞憂だろう。

髪が薄くなってきたオッサンから見ても出来すぎた連中で、彼らはどこの国どこの地域に行っても成功してやっていけると感じた。

他人の国ながらこんなに最高の奴らがいるならこの国の未来も明るい。

ただもし日本で働きたいならいつでもウェルカムだから是非来てほしいと思った。

金華市の後は二泊するべく衢州市へと向かった。

ここでは日本側で仲良くなった俺のマブたちを紹介しよう。

「ノゾム」と「ユリア」だ。

二人とも長年書道をやっているだけあって字がハチャメチャ上手い、そしてあの大勢の前でやりきる度胸もある。

みんなが見てる前でサラサラっと書き上げる大作には毎回脱帽だが、彼らを育てたのはこの俺だ。

そう、ノゾムとユリアは俺が育てた。

この旅で一緒に楽しいことを共にしてきた俺達なんだから、八割くらいは偉そうに絡んで遊んで(もらって)俺の手柄と言っても誰からも文句は出ないだろう、楽しかった。

最後に紹介するのは後半ずっと一緒に旅をしてきた周さんだ。

彼女は俺が唯一知っている中国のことわざ、说曹操曹操就到の発音を教えてくれた。

完璧だ、完璧すぎる。

あの美貌と美しすぎる発音に俺だけでなく妻まですっかり虜になっていた。

滞在中、彼女からは限られた時間の中でも多くの生の中国語を聞かせてもらい、ホンモノの発音を学ばせてもらった。

だからいつか、彼女が俺たちの話をしたときには、何万倍も上手くなった発音で彼女のもとに現れてやろう。

そう、噂をすれば影がさす。

最終日、長旅で溜まり切った疲れはスーツケースに入れて預けることができなかったので手荷物として機内に持ち込み、死んだように寝てポークライスオンリーとなった機内食を食べてまた寝て、バスの中では夢の世界で意識を浙江省に残った周さんへと飛ばしつつ宇都宮へと帰ってきた。

翌日はすっかりご無沙汰だった日本食を妻と食べながら浙江省での思い出について話した。

あれが楽しかった、どこが綺麗だった、なんの料理が一番美味しかったか、持ち帰った洗濯物が多すぎる、みんな今頃どうしているんだろうか等々話が尽きなかった。

昼から本屋に行き、妻が孔子の76代目子孫の人に持っていかれたジェットストリームの代わりを買う会計を待っている間に調べていたのは浙江省の本ばかりだ。

検索機に出てきたのは2020年のものだったが、四年前では少し情報が古いだらう。

なんせあれだけの国、あれだけの場所だ。

少し行かないだけできつと多くのことが変わるに違いない。

浙江省は多くの建物が建設途中だったのでこの先もさらに発展していくことが容易に想像できる。

街並みだけではない、海の向こうの友人たちもハンパない熱量を持っている奴らだから、もっともっと先へ進んでいくはずだ。

だから俺もこの栃木県で、今回の旅で出来た友人たちに負けないように成長していかなければいけないとここ最近忘れていた熱いものを胸の奥底に感じた。

なんてカッコいいことを言っているが、実際は浙江省という地と一緒に旅をした連中が大好きになってしまったので、また大騒ぎして遊びたいのが本音だ。

だから今回の旅は、俺と仲間たちとのこの先も続いていく最高の物語の序章にすぎない。

次の旅ももちろん柳さんの案内で一緒に走っていこうぜ、走吧。

「大好きな場所—浙江省」

木下琴美

私が初めて中国語に触れたのは高校時代です。触れたと言っても中国語の音の多さと四声を知り、単語をいくつか覚えた程度でした。何となく手を出してみた中国語でしたが、英語よりもはるかに身近に感じられた一方、この先にとっても広い世界があることは間違いない、そう感じたことを覚えています。それから十数年。その間、漢字の勉強をしたり、中国語の曲を聴き漁ったり、薬膳や東洋医学に興味を湧いたり、漢詩の面白さに気付いたり。ばらばらに好きになったものがいつの間にか中国に繋がることが多く、少し不思議な気もしました。しかし、趣味なのだからやりたいときに広く浅く楽しめればそれで良いと思ひ、それ以上深く考えることなく過ごしていました。

そんな中、今回中国に行ける機会を頂けてとても嬉しかったです。きっかけが無かっただけで、中国に行ってみたい気持ちは自分の中でどんどん大きくなっていったのだと気づきました。そして、今更ながら中国の地図をじっくり見ました。浙江省が日本に近い場所に位置していることを知ると同時ひとつの省がとても広いことに驚きました。また、行くからには少しでも中国語を話したい、そう思って付け焼き刃ながら出発前は中国語を勉強して過ごしました。もちろん、中国に行くにあたり不安もありました。水や食べ物でお腹を壊さないだろうか、中華料理が続いて胃もたれしないだろうか、本当にトイレにドアはあるのだろうか、準備した eSIM や決済アプリは現地で問題無く使えるだろうか。そして、日本から遠さかった台風の行く先は、浙江省方面。連日続いていた猛暑の心配は、出発直前には嵐の心配に変わりました。

しかし、幸いなことに全てが杞憂に終わりました。浙江省は華やかな大都市から自然豊かな山間部まで、どこも素晴らしいところでした。西湖が有名らしいということしか知らなかった私ですが、今回の行き先はどこも見応えのある場所ばかりで、時間が経つのがあっという間でした。買い物ができると聞いていた河坊街や景色が綺麗な塔などはもちろん楽しみでしたが、木彫りの展示や図書館なども行ってみると面白く、何より施設のスケールの大きさに圧倒されました。浙江省は中国の中でも博物館など文化的な分野に特に力を入れている省だと聞きましたが、納得です。綺麗で居心地の良い、内容の充実した施設ばかりでした。料理は美味しいものばかりで、辛い味付けや魚料理なども良かったです。脂が多いと感じたときに飲む優しい味のスープや果物がちょうど良く、ずっと浙江省にいたいとすら思えました。

そして何より嬉しかったのは、浙江省で出会った方の優しさにたくさん触れたことです。交流会で仲良くなった学生さんたちはもちろん、浙江省の各市の方や外交関係の方、訪問した大学の先生方など、色んな方とお話しする機会も多くありました。中国の方と一緒に中華テーブルを囲むなど初めてです。それもお忙しい中、私たちのために歓迎の場を用意してくださっていることを思うと、最初は緊張しました。しかし毎回、どの席も和やかな

雰囲気私達を迎えてくださり、簡単な言葉でゆっくり話して下さったり、翻訳アプリを使いながら料理について教えて下さったり、どの市でも盛大に歓迎していただき楽しい時間となりました。更に、街やホテルで出会った現地の中国人の方も身振りや筆談を交えて教えてくれたりするなど、とても親切な方が多いと感じました。幸運にもたくさんの良い出会いに恵まれ、すっかり浙江省が大好きになりました。

今回の旅では日本側のメンバーからもたくさん刺激を受けました。まず、みんなの吸収の早さです。中国語を勉強したことが無い参加者もそれなりにいたはずなのですが、みんな日に日に話し始めます。「谢谢」「好吃」も現地で話しながら使うせいか、発音がうまくなっていました。更に「小心」「辛苦了」なども習得し始め、「不客气」「不好意思」も聞き取るのを目の当たりにして、私も難しく考えすぎず、楽しい気持ちを忘れずに中国語を勉強しようと思いました。また、中国の箸が日本のものより大きくて長いこと、中国人にとって自然な聞き返しの「あ？」にびっくりすること、トイレに行くときはティッシュを忘れないようにすること、道路を渡るタイミングがわからずおろおろしたこと、ロボットの普及やキャッシュレス決済の浸透具合など、新鮮な驚きをみんなで共有できたことで、どんどん絆が深まったと思います。これもまた良い経験になりました。

今回の旅を通して中国の素晴らしい面をたくさん知ることができ、同時に他の場所にも興味が湧きました。しかし、私にとって今回の経験をさせてくれた浙江省は特別な所です。浙江省にはいつかまた絶対に行きます。連絡先を交換した学生さんたちは、日本と中国の言葉や文化など、お互いに知りたいことがたくさんあるもの同士なので、これからも交流が続けられたら嬉しいです。そしてもちろん、これからも私は中国語の勉強を続けたいです。やりたいことが多くなってしまいましたが、今のこの気持ちを忘れないことが、浙江省の皆様への何よりの恩返しになると信じています。このような素晴らしい機会を頂き、今回関わって下さった全ての皆様に心から御礼申し上げます。谢谢!

感想レポート

久卿亜理沙

この度は6泊7日という貴重な機会をいただき心から感謝しております。栃木県日中友好協会、浙江省の皆様など沢山の方にお世話になりました。浙江省(嘉興、杭州、義烏、金華、衢州)に訪問し、地理的位置、経済の特色、歴史や文化、美食、教育など様々な面を学び、大変実り多き時間になりました。バスから道路を眺めていると、緑色のナンバープレートの車が沢山走行しており電気自動車の普及率にも驚き、図書館や博物館など教育施設にもすごくお金をかけており、高層の近代的な建物なども多く国内総生産(GDP)第二位の国はとても素晴らしいなと感銘を受けました。

中国政府のEV普及政策(補助金支給、購入税免除、充電インフラの充実など)日本も見習うべきところがたくさんありました。iphoneの天気アプリで各地の大気汚染状況(空気質指数)を確認できるのですが毎日空気が綺麗で驚きました。日本の天気予報で中国から黄砂がくると頻繁に放送していた為、勝手に悪いと思い込んでおりました。私の時代錯誤な価値観がアップデートされました。

また各大学に訪問し、皆さん日本語が流暢で、英語だけではなく日本語を専攻する日本語学習者が多いのも初めて知り、嬉しくなりました。また学生が披露してくださった演奏や伝統舞踊、世界遺産も多く歴史と近代が融合する街並みなど全てが美しく、食事も大変美味しく中国が大好きになりました。各地で様々な記念品を頂いたり、人生で一度も食べたことがないような豪華な食事を用意して下さったり中国の方の人柄やおもてなし精神に感動しました。残念ながらマスメディアでは新型コロナウイルスや台湾有事などネガティブな面ばかりクローズアップして、世論調査では日本人の中国への印象を「良くない」「どちらかといえば良くない」と回答した方が多いようでとても残念です。

今回、訪中に向けて書店に行き、中国の地球の歩き方という本を購入しましたが2020年前後が最新版でした。書籍だと情報が古くなりやすいから小红书などの電子媒体で情報を得るのが一般的なのか分かりませんが、他の国は最新の紙媒体の2024年版が揃っており、中国観光市場の衰退を感じました。私の役割として、今回の訪問で学んだ事、感じた中国の良い所を周りに伝えマイナスイメージを払拭し、興味感心を持ってくれたら良いと思います。また中国語教室には通っていましたが、語学力や歴史を全然知らなくて自分自身の勉強不足を実感した旅でもありました。ドラマや書物などを見たりHSK試験3級に合格したら是非また訪問したいです。

「中国訪問を通して」

獨協大学外国語学部 1 年 小柳祐璃愛

今回の中国訪問は私にとって初めての訪問でした。今回の訪問で中国に対するイメージや考え方が変わり、とても有意義な 7 日間でした。今回の訪問で私にどのような影響を与えたのか述べていきたいと思います。私がとても印象に残っているのは 3 日目で訪問した杭州市の浙江省無形文化遺産博物館です。伝統的な芸能の資料や興味深い展示品が多く見られました。わたしは書道をやっているため、書道に関する展示物に興味を持ちました。朱肉が植物から作られることは知っていましたが、本物の原材料は見たことがなかったため、とても貴重なものが見られたと感じました。そのほかにも貴重な展示品がいくつもあり、中国の歴史を感じることができました。日本にもこのような歴史的な展示品はありますが、海外のこのような場所を訪れる機会はなかなかないため、とても勉強になりました。

また、私は浙江師範大学と衢州学院を訪問させていただいた際、書道を披露させていただきました。大勢での書道パフォーマンスの経験はありましたが、このように個人で書道を披露させていただく機会はありませんでした。中国訪問前日まで練習していましたが、とても不安でした。書道発祥の地でこのような経験をさせていただけたことは、これからの私の作品作りにおいて新たな発想を生み出すきっかけにもなると感じました。今回の経験のおかげで、より多くの人に書道に興味を持ってもらうことができたのではないかと感じます。

私は 4 月から大学で中国語を第二言語として学習し始めました。まだうまく話すことができなかつたため、大学生との交流は少し不安な気持ちがありました。しかし、どこの大学を訪問しても優しく話しかけてくださったことが印象深いです。私の拙い中国語も聞き取ろうとしてくれ、お互いに歩み寄る姿勢がみられました。実際に足を運び、自身で経験することでテレビなどのメディアからでは感じることでできない中国の良さを感じることができました。

正直、テレビなどで報道される中国しか知らなかつたこともあり、中国に対するイメージは私の中であまり良いとは言えませんでした。しかし、今回の訪問で中五個に対するイメージが変わりました人も優しく日本が大好きな人も多く、政治的に対立はあっても、ひとりひとりが勝手なイメージにとらわれることなく相互理解することができたらより良い関係になれるのではないかと感じました。また、今回の訪問で中国語学習に対する意欲が増大しました。大学生との交流でうまくコミュニケーションが取れない時もあり、自分の未熟さが悔しかったと同時に言葉の壁を強く感じました。これまでは書道をより深く理解できるようになりたいという気持ちが強かったのですが、もっとより多くの人とコミュニケーションを取れるようになりたいと思う気持ちが強くなりました。

今回の経験を友達や家族に伝え、中国に対してネガティブな感情を持つ人たちの意識を変えていきたいと思いました。周りの友達に聞いても本人は中国に興味はあるが、親世代

があまり良いイメージがないため、両親に渡航を渋られていた友達もいました。そのような人たちの意識を変えられるように私の目標でもある書道の魅力を伝えることと同時に中国の魅力を伝えていきたいと感じました。

中国リフレクション

2024年10月7日 鷺谷彬

9月19日から9月25日にかけて中国を訪れる機会があり、その経験は非常に素晴らしく、驚きと感動に満ちたものでした。5年前にも中国を訪れたことがありましたが、今回は15年前の中国と比べてみて、特に利便性や清潔さにおいて大きな進歩があったと感じました。

まず最も印象的だったのは、完全なキャッシュレス社会への移行です。レストランやショッピング、タクシーに至るまで、ほとんどすべてが WeChat Pay や Alipay などのアプリを通じて行えました。現金を持ち歩いたり、お釣りを気にしたりする必要がないという利便性は、以前の訪問と比べて非常に大きな進歩であり、日常生活をととても楽にしてくれました。

また、清潔さにも驚かされました。通りや公共の場所、レストランは以前に比べて驚くほど清潔で、15年前に訪れた時とは全く違う印象でした。この清潔さへの配慮は、全体的な安全性と秩序感をさらに高めていました。

特に印象に残ったエピソードは、レストランで誰かが財布を忘れていった出来事です。店員さんがすぐに私たちに連絡して、それが私たちのものか確認してくれました。実際には私たちの財布ではなく、別の客のものでしたが、店員さんが迅速に元の持ち主を見つけようとする姿勢には感動しました。このような迅速かつ丁寧な対応は、滞在中に感じたホスピタリティと信頼感を象徴していました。

また、夜の雰囲気も非常に活気に満ちていて印象的でした。多くの建物が鮮やかな LED ライトで美しく照らされており、夜でも明るく楽しい雰囲気が続いていました。夜の散歩は、これらの光が街をどう変えるのかを感じるたびに感動し、住民や訪問者にとって素晴らしい環境を作り出していました。

全体として、今回の中国旅行は私に新たな感動を与えてくれました。技術の進歩、清潔さ、人々の温かさなど、どれも強く印象に残り、また訪れたいと感じさせてくれる経験でした。今後の中国のさらなる発展を楽しみにしています。

栃木県青年友好使者訪問団に参加して

慶應義塾大学二年 桜庭望

はじめに、この度は大変貴重な機会をいただきまして、誠にありがとうございました。我々を温かくもてなして下さった浙江省人民対外友好協会と日中友好協会の皆様、並びに日中友好協会の諸関係者様に厚く御礼申し上げます。

私は今回、母校の恩師である塚原秀巖先生のご紹介を受け、浙江省への訪問団に参加させていただきました。私はこれまでに訪中経験がなく、今回の訪問が初めての訪中となりました。私の中国訪問経験がこのような素晴らしい幕開けを迎えられたことを大変喜ばしく存じております。

この度の訪問では、浙江省各地の素晴らしい名所を視察するだけでなく、合計三か所の大学と交流プログラムを行わせていただきました。そのどれもが想像以上に素晴らしく、かけがえのない思い出として心に刻まれております。また、各大学にて素敵な友人たちと新たに縁を結ぶことができ、心から嬉しく存じます。

大学での交流プログラムでは、書道を披露する機会をいただきました。このような日中両国の架け橋として筆を執る大役を仰せつかり、大変身の引き締まる思いでしたが、皆様に快く受け入れていただき、感謝の念に絶えません。私の書が日中友好の第一歩としてお役に立てていましたら、これ以上の喜びはありません。

私が中国浙江省で見た景色、関わった人物、そして経験したすべての物事は、私にとって刺激的でした。これまで漠然と抱いていた中国像が、今回の訪問を通してより一層深く具体的なものになりました。実際に中国浙江省を体感することで、私は中国をより真に迫って捉えられるようになったと感じています。この度の訪浙を経て獲得したこのような能力を万全に活用し、今後とも日中両国の友好の更なる発展のために、尽力していく所存です。

あらためまして、この度は大変貴重な機会をいただき、誠にありがとうございました。心温まるおもてなしに心より感謝申し上げます。

今後とも何卒よろしく願いいたします。

中国訪問

早稲田大学 4年 野口晋太郎

はじめに、今回栃木県の青少年を交えた浙江省訪問を企画して下さった日中友好協会並びに私たちの訪浙を快く受け入れて下さった浙江省人民対外友好協会ほか浙江省の多くの方々へ、深く感謝申し上げます。ありがとうございます。この度の訪中で私自身が得たものは非常に多く、その影響も大きく、このような貴重な機会を享受できたことを光栄に思います。私はこれまで留学経験がなく、海外旅行も数えるほどでした。日本という限られた環境で生活していた私にとって、手厚いガイドや歓迎のもとで行われた一週間の文化交流は、刺激に満ちたものとなりました。感想レポートに特筆すべきと感じた 3 つを下記に示します。

まず一つ目として、街並みの素晴らしさ、公共施設の充実性を挙げます。今回訪問した嘉興市、杭州市、金華市、衢州市すべての街並みにおいて規模が大きく、都市という大きい枠組みで整備されている印象を受けました。その中でも特に杭州市の街並みに感銘を受けました。二日目、三日目の夕食後、夜の杭州市を散策する機会に恵まれました。宿泊させていただいたホテルが杭州市の中でもビジネス街に位置していたこともあり、銀行、IT 企業等様々な企業の高層オフィスビルが軒並み立っているのみならず、きらびやかなショッピングモールや景観に優れた河川敷など行くところすべてが魅力に満ちていました。同時に道端に落ちているごみはゼロに近いほど都市全体がきれいに整備されており、経済的な豊かさと計画的な都市開発のリアルをこの身で実感することができました。

次に交流した学生のパフォーマンス、人柄の良さを挙げます。今回の訪問を通して浙江工業大学、浙江師範大学、衢州学院の 3 つの大学、およびその大学生と交流しました。いずれの交流においてもその地に根ざした伝統あるパフォーマンスを披露して下さり、美しさとホスピタリティの精神を感じることができました。特に浙江師範大学にて披露していただいた舞踊はとても美しく感じました。また、交流した現地の学生の全員が中国語の不自由な私に対しても積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢で接して下さり、私の数少ない国際交流の経験のなかでもとりわけ素晴らしいものになりました。改めてありがとうございます。

最後に食事に際するマナーに関して衝撃を受けました。一週間を通して歓迎会、交流会をたくさん開いていただきました。提供していただいた食事、お酒そのどれもがとても美味しかったです。どの夕食会においても私たちが食べきれないほどの食事が次々と提供され、常にウェイターの皆様が私たちのドリンクや卓上の食品に気を配り、ゲストが快適に過ごすことができるような体制になっていることに大変衝撃を受けました。この機会を通して、歴史ある中国のおもてなしの深さを実感することができました。

最後に今回の訪中を通して、私は日本と中国の文化の違いを直接肌で感じ、異なる視点や考え方に触れることができました。特に、浙江省で出会った多くの方々の温かいおもて

なしや、現地の学生たちとの交流を通じて、国境を越えた人とのつながりの大切さを強く実感しました。これからの人生において、この経験を活かし、さらに国際的な視野を広げていきたいと考えています。また、今回学んだことを周囲の人々と共有し、日中両国の相互理解を深めるための架け橋として貢献していきたいと思います。最後になりましたが、このような貴重な機会を提供して下さったすべての方々に心から感謝申し上げます。

2 度目の中国訪問

宇都宮共和大学 石川眞矢

前回から約 7 ヶ月ぶりの中国訪問、今回は人数と日数が増え、移動距離も長いものになりましたが、前回以上に有意義な体験をすることが出来ました。

その中でも、現地の大学生と 3 回も交流の機会があったことが、今回の訪問の大きな成果だったと思います。前回の訪問の際には、浙江大学で昼食の時間に交流しましたが、今回は、浙江工業大学・浙江師範大学・衢州学院の学生たちと 1 時間以上交流することができ、中国の学生が日本に対して考えている事や私が疑問に思っていたことを多く質問することが出来ました。私はこの交流の中で、中国の学生たちと人民政府の関係者の方々は、私たちに対して友好的で熱烈に歓迎して頂き、今後の栃木県と浙江省の国際交流をさらに深めるきっかけになったと思っています。しかし同時に、皮肉なことだとも思いました。私たちが今回出会った人々は、日本人と友好的な関係を築こうと考えている人が多く、私たちも中国人と友好的な関係を築こうとしている人が多かったと思います。ですが、日本と中国の政治的関係は、決して友好的関係にあるとは言えない状況です。直近では、中国で日本人の子どもが殺害される事件や軍による海洋進出など、予断を許さない状況が続いています。そのような現在にこそ、今回のような両者のことを分かり合う国際交流の機会と場が必要だと考えます。

今回の訪問では、前回よりも多くのことを学ぶことができました。特に同年代の学生たちと深いコミュニケーションが取れたことにより、中国人の日本に対する考えや価値観を認識することができました。この経験を元に、日本と中国の相互理解を深め、実践したいと思っています。

中国訪問を通して

獨協大学三年 鈴木 佑梨

今回の研修は私にとって初めての中国訪問でした。初めて出会う方々と、初めての中国に向かうことに、当初は緊張と不安が混ざったような気持ちでした。しかし成田空港に着してから皆さんとの距離を縮めることができ、それらは徐々にワクワクへと変わっていききました。随所に住み慣れた日本との違いを感じ、中国で過ごした7日間の中で学ぶことは今まで想像もできなかったような新しいことばかりでした。その中の2つを紹介します。

まず1つ目は、中国の人々です。恥ずかしながら私は中国語を満身に習得できていなかったため、大学での交流時を除き、両言語ができる方に助けをいただきながら現地の方々との交流を図りました。中国語を話す現地の方々の表情は非常にやわらかく、話す言葉は分からずとも、どのような場面においても歓迎されていることを感じられました。「歓迎している」と言葉で伝えてくださったお店の方もおり、帰国した今も当時のことを思い出すだけで心が温まります。一方で、大学では日本語を使用して交流を行いました。出会った大学生たちの中には日本のアニメを好む方が多く、中国におけるアニメ人気の高さを実感しました。大学でのプレゼント交換や晩餐会では盾、大きな扇子や孔子のキーホルダーをいただき、貴重な思い出の1つとなりました。選んでくれた人たちの気持ちが心に響き、感謝しています。

2つ目に紹介したい日中の違いは環境です。日本の道路と比べて車線が多く、バイク用の道路が設けられている点や、訪問先の学校や図書館の規模に驚きました。世界地図を眺めるだけでは分からなかった中国の国土の広さを感じました。大学では構内すべてを見学できたわけではありませんでしたが、門をくぐってからの移動時間の長さや車窓からの景色によってその大きさを感じることができました。また、中国国内においては、店舗の規模にかかわらず、キャッシュレスが主流でした。日本では徐々にキャッシュレス決済が普及しつつあるものの、現金を持って出かけることには不安を感じます。地域全体の統一感と利便性の高さを認識しました。さらに、食事の場面ではこれまでに食べたことのない中国料理ばかりが提供されました。見た目や香りでは分からない辛味に驚き、視覚や嗅覚でも体感する料理の美味しさに感動を覚えました。そして、夜になり外に出ると、美しく光輝く世界がありました。毎晩、地上やホテルの部屋から眺める景色は美しかったです。中でも特に印象的だったのは、金華古城の上からの眺めです。まるで日本のクリスマスを連想させるような、町一帯が光り輝く光景に感銘を受けました。

青年団の一員として参加し、団長や団員の方々、現地の多くの人と出会いを通して、自分自身の内気な部分が前向きに変化したことを感じています。今回の貴重な経験を忘れずに、必ず一歩ずつ前に進んでいこうと思います。また、体験したことを身近な人々に伝えることで、私のように中国への高い関心を持つ人を増やしていきたいです。本当にありがとうございました。

栃木県日中友好青年代表団で中国を訪問して

2024年10月5日 周藤花佳

今回、中国を訪れるまで私が中国に抱いていたイメージは負のイメージの方が多く、行く
と決めたものの日本との大きな違いに出発の直前まで不安を募らせていました。しかし、
実際の自分の目で見たものは予想とは違うもので溢れていました。

ホテルの近くの商業施設、ローカルコンビニ、商店街のお土産屋など様々な店に立ち寄り
ましたがどこの店員さんも中国語が話せずお金の数え方もわからない私を嫌な顔をせず受
け入れてくれ、丁寧に接客していただき中国人のやさしさに触れることができました。

1番印象的だったのは現地のスターバックスのサイニングストア（耳の不自由な店員さん
のいるお店で会話は手話が用いられる）に立ち寄った時、中国で伝わるか定かではありま
せんでしたが日本の“ありがとう”の手話を使った際、現地の“谢谢”を意味する手話を教え
てくれました。それだけでも嬉しかったのですが、退店時に“谢谢”の手話で挨拶したとこ
ろ現地の店員さんは“ありがとう”の手話で返してくれました。私たちが歓迎してくれてい
るのだと感ずることができてとても嬉しかったです。

また孔子南宋家廟のある金華市を訪れた時には孔子の手を前に合わせてお辞儀をする挨拶
がその地の挨拶の定番になっていることを知り、とても素敵な歴史の継承だと感じまし
た。その歴史を大切にしている姿を目の当たりにし、中国に対するイメージが大きく変わ
りました。

いろんな施設を訪れる中で私たちが歓迎してくれる現地の人の姿にとっても嬉しい気持ちに
なり、またその地それぞれの歴史を大切にしている姿など、私が抱いていた負のイメージ
よりもはるかに良いイメージが溢れていることを身に染みて感じる事ができ、中国を訪
れたことがとても意味のあるものになりました。

中国でたくさんを経験し、私の中にあった中国のイメージを変えてくれたこの旅に
参加できたこと心から感謝しています。

また機会があれば中国を訪れたいと思います。

感想レポート

宇都宮大学 4年 多田奈津那

今回の浙江省訪問で、私の中国に対する印象が大きく変わりました。私は海外に行くこと自体初めてであり、中国という国のこともあまりよく知らなかったため、訪問前は楽しみでありながらも不安も大きかったです。しかし、実際に浙江省の歴史ある場所や建物、言葉が通じなくても優しく接してくれる現地の方々に触れ、私にとってとても有意義な訪問になりました。

今回、最も印象深かったのは、浙江省の大学生との交流です。日本の文豪やアニメが好きで日本語の勉強を始めた方が多く、自分の国の文化を愛してくださっていることがとても嬉しかったです。私は中国語が話せないため、大学生の皆さんと話す前はとても緊張していましたが、皆さんが私と一生懸命にコミュニケーションをとろうとしてくださり、私もその姿勢に応えようと、言語の壁を越えてとても楽しくお話することができました。その上で感じたのは、言語の壁がなければもっと会話の幅が広がったのではないか、ということです。大学生との交流だけでなく、現地の方に話しかけられた際に理解できず、もっと色々な言葉で感謝を伝えたくてもそれができなかったことがとてももどかしかったです。そのため、語学の勉強を頑張りたいと強く感じました。また中国を訪れて、今回の訪問で仲良くなった大学生の方々に会いに行きたいです。その時には中国語を話せるようになっていきたいです。

日本には、私のように中国に対して誤解をしている人が多くいると思います。私は浙江省が素晴らしい所であったことをできるだけ多くの人に伝えていき、中国を訪れたいと思ってくれるように努めていきたいと思っています。また、今回の訪問で世界の色々な場所に訪れることや、言語を勉強する意欲がとても高まったため、臆せず自分のやりたいことに向かって頑張りたいと思います。

1 週間の中国訪問を経て

宇都宮大学 小濱瑠七

今回、栃木県日中友好協会を通して初めて中国を訪問することになったが、想像を絶するほど充実した1週間になった。

振り返ると、あっという間の1週間だったが、その間に多くの人との出会いがあった。訪中団員とのかかわりはもちろん、中国の大学生との交流は同世代ということもあり、とても新鮮だった。日本のものや文化が好きな学生も多く、日本の影響力の高さを改めて感じた。日本に居るだけでは中国に対するイメージは偏ってしまうが、今回出会った同級生とはすぐに友達になり、日本人と変わらないいいって普通の人であることに少し驚いた部分もあった。

また、多くの歴史ある地区や建造物を見学し、改めて中国という国の歴史の深さを体感した。ネットや教科書には載っていないことや見ることができないところを実際に自分たちの目で見ることができた点ではとても貴重な経験だったと思う。大学生の出し物で笛や琴などの演奏も聞き、中国らしさを感じつつ、聞きなじみのある音色から日本との共通点も多く感じることができた。囲碁の発祥地は言い伝えが興味深かったことはもちろん、自然のなかにそのまま残っている様子は雄大で圧倒される気持ちになった。街並みも想像するよりも近代的な部分が多くあった。特に夜のビルの電飾は圧巻だった夜中でも煌々と輝き、ホテルからの眺めをより楽しいものにしていて。バス移動で見た上海の街の景色も輝いていたことが忘れられない。店で買い物をする際、たどたどしい中国語で話す私たちに丁寧に説明してくれた店員さんも多かった。熱心に翻訳機を使ってくれたり、ジェスチャーで伝えようとしてくれたりする姿など、総じて「中国人」に対するイメージが大きく変わる場面ばかりだったと感じた。

今回、このように最高の歓迎ともてなしを受け、二度とできない体験をたくさんすることができた。ここで学んだことや出会った人を大切に、これから日中両国の関係を自分の周りという小さい単位からより良いものにしていけたら良いのではないかと考えた。

浙江省訪問について

宇都宮大学 1年 村田智子

この度、中国浙江省を一週間訪れる機会をいただき心から感謝申し上げます。この訪問は私にとって大変貴重な体験となり、多くの学びを得ることができました。

訪中の半月程前に上海を訪れていたため今回が二度目の中国だったのですが、この経験が今回の訪問において非常に役立ちました。そのため、浙江省でもスムーズに行動でき、地元の人々や現地の大学生とのコミュニゲ-ションも比較的怖じけることなく挑めたと思います。上海での経験があったからこそ、浙江の魅力をより一層感じる事ができた実感しています。

今回の訪中ではやはり浙江師範大学や浙江工業大学衢州学院での学生との交流が一番印象深かったです。今までも宇都宮大学に在籍している中国人留学生の方たちと交流する機会はあったものの一対-で中国の方と交流するのは今回が初めてでした。互いに言語を教え合ったり、趣味について語り合ったりする中で、国を超えた友情が芽生えたと感じています。

最後に、浙江省の人々の性格が非常に暖かかったことが心に残っています。以前日本語を学んでいたことがあり日本語で話しかけてくださったり、海外から来たと知って飲食店で料理を一品隣のテ-ブルの方から頂いたりしました。このような親しみやすい雰囲気のおかげで、滞在中、はじめは緊張していたものの段々とリラックスして過ごすことができました。

改めて、この貴重な機会を提供して下さった皆様に感謝申し上げます。今後もこの経験を生かし、国際交流や中国語学習へとつなげていきたいと思っています。

中国浙江省を訪問して

宇都宮大学国際学部 小倉咲花

中国渡航 6 泊 7 日の訪問を通じて、多くの学びを得ることができました。孔子南宗家廟や開化根宮仏国などたくさんの歴史ある施設や衢州城市展覧館などの資料館を訪れたり、本場の中国料理を食べたりすることを通して、教科書やインターネットでは知ることがなかった中国の新たな側面を見ることができ、とても学びのある充実した時間を過ごすことができました。浙江工業大学、浙江師範大学、衢州学院の 3 校の大学を訪問し、現地の学生達と交流する中で、中国語でコミュニケーションをとることのできないもどかしさを感じた一方で、日本のことが好きで日本語を学びたいという学生が多くいることを改めて実感しました。違う国にいてもチャットや電話などを通して互いの言語の勉強ができるので、今回交流した学生と積極的にやり取りを続けたいと思うと同時に、互いの国についてもっと知りたい、教えたいという気持ちが強く芽生えました。この経験をモチベーションにして中国語の勉強を更に頑張ろうと思います。

最後に、この栃木県青年友好使者訪問団に参加させていただけたことをとても嬉しく思います。たくさんの貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

訪中を終えて

宇都宮大学地域創成科学研究科

修士1年 木村有里

この度、浙江省人民対外友好協会のご招待により、2024年9月19日から25日までの6泊7日間、浙江省を訪問しました。訪中の感想を以下にまとめます。

まず、中国の政策や都市開発について強く印象に残りました。中国の政策は目的と予想される効果が明確であり、大規模な政策を迅速に実行する判断力の高さに感心しました。しかし、その一方で急速な発展には様々な側面があるのではと考えました。このような副作用的な影響についても興味を持ち、この訪中はより深く理解したいと思うきっかけになりました。

また、現地の人々の優しさにも感動しました。ガイドの柳さんをはじめ、浙江省で出会った全ての方々が非常に温かく接してくれました。日本人同士のコミュニケーションは一定の距離感を保つことが多いですが、中国の方々特有の体当たりのコミュニケーションを初めて体験しました。中国語が話せなかったにもかかわらず、交流できたと実感できたのは、現地の人々が歩み寄ってくれたからであると考えます。特に、大学訪問では、お互いの語彙と文明の利器を駆使し、言葉の壁を越えて心が通じ合う瞬間を経験することができました。帰国後も連絡を取り合い、良好な関係が続いていることを非常に嬉しく思うと同時に、学ぶ場所が異なっても、お互いに切磋琢磨し学業に励む仲間ができたことは、とても貴重な体験だと感じています。

訪中は初めてだったため、見る景色、街中に広がる香辛料の香り全てが新鮮で、歴史と先端技術が融合する中国の魅力を感じることができました。また、地元の伝統工芸品や文化に触れることで、中国の豊かな文化遺産を深く理解することができました。この訪中経験は、私にとって非常に有意義で、数々の新しい発見と学びをもたらしてくれました。最後に、訪問の計画、訪問中のサポートをくださった日中友好協会、そして私たちの訪問を温かく迎えてくださった浙江省人民対外友好協会をはじめ、関係者の皆様に心より感謝いたします。中国語が話せない私が無事に訪中を終え、温かい気持ちで帰国できたのは、皆様のおかげです。本当にありがとうございました。今後も日中両国の友好関係がさらに深まることを願っております。

中国に行ってみて

宇都宮大学国際学部1年 福田恵利香

私が今回の訪問で感じたことは中国が歴史を重んじつつめざましい経済発展をとげているということです。今回訪れた場所はいずれもその土地の文化や歴史を紹介、展示する建物がありそれらの施設や建物を訪問することで中国何千年の歴史や杭州の歴史を肌で感じることができました。それと同時にたくさんのビル群や近代的な建築物をみたり至るところの自動化、電動化を感じたりすることで中国がとげた著しい経済発展をはっきりと認識しました。また中国の電子決済使用率がとても高いことは中国を訪問する以前から認識していたのですが、都市近郊にある大きな店だけでなく町の小さな小売店も全て電子決済に対応していて普及率の高さが自分の想像以上に高くとても衝撃を受けました。また、大学での交流では日本の大学と中国の大学の敷地面積の大きさや授業のカリキュラムの違いを知るといっても貴重な体験を味わうことができました。さらに、学生との交流では彼らがいかに日本に関心があるか、いかに日本の言語や文化を習得しようとしているかの熱意を今回の訪問を通して感じました。

今回の訪問で私が一番心に残っていることは浙江図書館に行ったことです。つくりがとても近代的であることに驚いたのはもちろん、私でも知っているような歴史的な文書のコピーが保管されており市民にとっても国にとっても重要な位置付けの建物であることを実感しました。そして、見学したさい自習スペースには老若男女問わず人々がたくさんいて中国の人々の勤勉さを目の当たりにしました。そしてこの-週間を通して感じたことや得たことを今後の学習などにかかしていきたいです。

浙江省を訪問して

宇都宮大学国際学部3年 飛田遥

まず初めに、白石雄治会長をはじめとした栃木県日中友好協会の皆さま、並びに浙江省人民対外友好協会の皆さまにはこのような素晴らしい訪中の機会を設けていただき、感謝申し上げます。かねてより望んでいた中国への訪問であり、食や学生生活、歴史や文化といった幅広い分野へ実際に五感を通して触れることができたこと、非常に刺激的な経験となりました。

私がこの訪中にて最も強く感じたことは、学生たちの日本に対する関心の高さです。今回は、浙江工業大学・浙江師範大学・衢州学院の計3校を訪問しました。彼らの日本に対する興味のきっかけは自身の趣味や生活に関することが多く、学業と並行して生活の中で多くの日本語や日本文化に触れているからこそ、彼らの日本に対する関心が高く、学習へ繋がりがやすいと感じられました。特に印象的であったのは衢州学院の学生です。彼らは化学や物理学、音楽を専攻しているにも関わらず、自主的に言語学習や日本渡航を行っていました。自身の専攻範囲を超えて学び、行動することで新たな発見や出会いをもたらすことができることを痛感し、自身の興味関心もさらに広げていこうと思うきっかけとなりました。

また、彼らをこうも惹きつける日本文化のすばらしさを再度認識することができました。今回の訪中にて交流のあった日中の学生にとって両者が国を知る重要なツールとして機能しているため、私自身、国外への視線を強めるだけでなく、日本文化や歴史について精通するべきであると強く感じました。これからも彼らと継続的に連絡を取り合い、相互の交流を深めていきたいと思います。一方で、彼らとコミュニケーションをとるためには自身の中国語能力が不足していることも痛感し、これからの中国また中国語の学習のモチベーションも大いに向上しました。

白石団長がおっしゃっていたように、私たちのような世代が積極的に交流を試みることで日中友好の架け橋の一部になれるよう、これからも常にポジティブな姿勢で何事にも取り組んでいきたいと思います。

浙江省を訪問して

宇都宮大学一年 小池瑠莉

私は栃木県青年友好使者訪問団に参加し、浙江省嘉興市、杭州市、金華市、衢州市を訪問させていただきました。このような貴重な機会をいただけたこと、非常に嬉しく思います。ありがとうございます。私が中国を訪れるのは今回が初めてでした。七日間の滞在中、実際に体験して気づいたことが数多くありました。

まず、浙江省の素晴らしさに深く感動しました。私が受けた印象を一言で表現すると、「長い歴史と最新のテクノロジーの共存」です。伝統的な名所を観光する機会が何度かあり、古くから受けがれてきた歴史を肌で感じることができました。その中でも、五日目に訪れた孔氏南宗家廟が特に印象に残っています。重厚かつ精巧な建築や展示に圧倒されました。さらに、孔子の子孫の方に偶然お会いするという、大変貴重な経験をすることができました。とても温かく接してくださいました。伝統的な文化が残されている一方で、技術面でも非常に発展しているという印象を受けました。日本と異なる部分として挙げられるのは、キャッシュレス決済がくまなく普及しているという点です。どのお店に行っても、キャッシュレス決済の表示を見ることができました。クレーンゲームやカプセルトイでも、現金ではなく全てバーコードを使用して支払いをしました。

また、複数のホテルの廊下やエレベーターでロボットに遭遇したり、訪れた観光スポットでは巨大なモニターで映像や展示を楽しんだり、進歩した技術に触れる機会が何度もありました。また、現地の大学での交流も、忘れられない素晴らしい思い出になりました。学生の皆さんは日本語がとてもお上手でした。私のつたない中国語を聞き取って褒めてくれて、優しさと温かさを感じました。日本のカルチャーに興味がある方ばかりで、共通の話題を見つけることができ、会話も弾みました。連絡先を交換し、相手から中国語を教えてもらったり、私が日本語を教えたりというように、相互的なコミュニケーションをとることができています。彼らの日本語の実力に驚いたと同時に、私の中国語の学習意欲がとても刺激されました。いつか中国語でコミュニケーションをとってみたいです。

初めて訪問した浙江省で、何事にも代えがたい、本当に素晴らしい経験をすることができました。これからの日本と中国の友好がより深く、そして末永く続くものになるよう、私たち若い世代にできることはないか考えていきたいと思います。

訪中で得た知見と今後の課題

佐藤野乃果

私は2024年9月19日から25日の一週間、栃木県日中友好協会の青年友好使者代表団として、浙江省を訪れた。今回の訪中は私にとって二度目の海外、初めての中国であり、少しの緊張と大きな期待が交錯していた。このような貴重な機会をいただけたことを大変うれしく思っている。

私が中国に興味を持ち始めたきっかけの一つに、幼いころから習っていた書道が挙げられる。私は小学一年生から12年間書道を習っていた。とにかく書いて練習を重ね、協会へ提出するという方針の教室であったため、書道の歴史的背景などを詳しく学んだことはなかったが、王羲之の蘭亭序などを書いたことで、これは中国の文化なのだというぼんやりとした印象を持っていた。また、私の叔父は中国の会社に長年勤務しており、中国語が堪能であった。叔父が日本に帰ってくるタイミングで家を訪れると、必ず中国茶器で中国茶をふるまってくれた。当時は幼かったため全く理解できなかったが、中国の文化、中国語の説明などもしてくれていた。さらに漢方を服用することもあったため、幼い頃から私の中国に対するイメージは、書道、茶、漢方、などといった豊かで素敵な文化を多く持つ国、というものであった。

今回実際に中国を訪れて、中国の豊かな文化に直接触れることができた。浙江省の皆さんは大きな円卓に並ぶ豪華な料理や学生のパフォーマンスで私たちに歓迎してくださり、本当に心が温まった。食事には必ず温かいお茶が用意されており、中国の健康概念を肌で感じることができた。私は大学の中国文化論という講義で、漢方医学や中国の健康概念について掘り下げたレポートを書いたことがあり、中国と健康というテーマに強く関心を持っていたため大変興味深かった。中国人は冷たい飲み物などを控える、という知識は中国の有名人の言動から知っていた。しかし、最近は冷たいものも食すと聞いていた割にはやはり日本よりは控えめな冷たさであった。実際に体験したことで上火と下火という概念への理解が少しずつ深まってきているのではないかと感じる事ができた。

また、料理を大皿からそれぞれ取るという食事スタイルは、日本の公の場ではあまり見られない。円形の食卓のおかげで全員とアイコンタクトを取りやすいし、料理を回すことで互いに配慮せざるを得ない。現代の日本に欠けている団らんが、中国では身近で大切なものなのだと感じた。一週間ガイドを務めていただいた柳さんも、旧正月や中秋節は、家族が集まる大切な日だとおっしゃっていた。

訪中以前から感じていたことだが、中国人は家族愛、愛国心が日本より強い傾向にあるのではないだろうか。中国に限らず、日本と比較すると若者の愛国心、家族愛が強い国は多いように思える。逆に言えば、日本の若者にはそのような傾向は見られない。愛国心とひとことに言うと政治的立場と結び付けられかねないが、私が指摘したい点はそうではなく、単に自分自身が属する国の文化や自然について深く知り、郷土を愛すことに、何の問

題があるのだろうか、ということだ。隣国として、そのような中国の素敵な国民性に、素直に感銘を受けた。

恩師からの受け売りだが、文化は理解するものではなく、承知するもの。偏見やステレオタイプは持たないに越したことはないが、持たないということは不可能だ。大切なのはそこから自分が行動するかである。思い込みを持ったまま放置するのではなく、自分がいかに正しい知識を持っていないかを自覚して、修正していくことが大切だと学んだ。国と国の際を越えることが求められる国際学部に所属する学生として、異国文化を学ぶ意味をこれからも考え続けたい。そして、隣国として互いに認めるべきところは認め合い、それぞれに足りない部分は補い合い、協力し合い、尊重し合う良好な関係を築き続けていきたい。

中国浙江省へ訪れて

宇都宮大学国際学部一年 小泉京花

9月下旬の7日間、日中友好協会の企画により中国は浙江省へ訪問させていただきました。国内外様々な土地に足を運ぶのが好きな私は、かねてより中国へも行ってみたくと願っておりました。今回、多くの皆様の手厚いサポートにより初めての訪中が叶ったこと、まずはお礼申し上げます。

中国では、これまでの人生で経験したことのないほど豪華絢爛な歓迎を浴びてまいりました。到着するやいなや、待ち受けていたのは嘉興市での歓迎会。円卓の回転台へ次々と並んでいく大皿料理の数々に、中国へ来たのだ！とようやく実感しました。

翌日は早朝から浙江三大名湖の一つである南湖を訪れ、午後は浙江工業大学へ。日本語が堪能な学生の皆さんにはとても驚かされました。ペアの学生にいただいたリトルブレスの冊子は、今、中国語の勉強も兼ねて大切に読んでいるところです。夜の懇親会ではこれから日本語を学ぶという学生と隣り合い、翻訳機を駆使しながら中国の食文化や日本のアニメについて語りました。嬉しさと同時に、もし翻訳機を介さず話せたならばもっと友好を深められただろうと、自身の勉強不足を痛感する瞬間でもありました。

3日目は西湖、浙江省文化センター、図書館。4日目には李祖村、そして国際商貿城を訪れ、日本で見る“Made in China”の商品もここから卸されているのだろうかと思いを巡らせました。金華市へ移ると晚餐会に並ぶ料理にも変化があり、初めて口にする食材にも心躍らせながら食事を楽しみました。夜、街中で立ち寄ったコーヒーショップでは、店員さんの身を尽くした対応に心温まる経験もしました。思えば、どのお店の店員さんも言語の通じない我々に親身で、にこやかだったのです。少なからず抱いていた中国へのステレオタイプを綺麗さっぱり払拭するには、十分すぎる経験でした。

5日目は浙江師範大学へ訪れ、宇都宮大学とは比にならない広大なキャンパスに驚き、衢州市では囲碁にまつわる爛柯山、あの孔子の南宗家廟にも行きました。6日目は根宮仏国で膨大な木の彫刻作品を鑑賞し、最後は衢州学院へ。全日存分に浙江省を堪能できる充実した行程でしたので、ここでは到底伝えきれずもどかしいです。それだけに、現地へ足を運び中国を五感のすべてで経験できた今回の訪問をたいへん誇らしく思います。

初めて中国へ訪れて、知りたいことがさらに増えました。その心残りを中国留学への糧にして勉学に励んでいきたいと思えます。加えて、栃木県日中友好協会の一員として、そして中国との関わりを持ったいち日本人としても、日中のかけはしとなれるよう小さな友好を積み重ねていきたいと思えます。改めまして、皆さまへ感謝申し上げます。

浙江省への訪問を経て

宇都宮大学 4年 後藤奈々

はじめに、今回の浙江省訪問を企画してくださった日中友好協会、並びに私たちの訪問を快く受け入れ、盛大に歓迎してくださった浙江省対外友好協会、各学校の先生方並びに学生の方々、ほか浙江省の多くの方々へ、深く感謝申し上げます。

私自身、かねてより中国への関心が強く、大学では中国語を履修し、中国の文化や政治、歴史についても学んできました。いつか訪中を実現させたいと強く思っていた矢先に浙江省訪問のお話をいただき、即座に参加を希望した次第です。

実際に浙江省を訪問してみて、率直に圧倒される事が多く、改めて中国という国の素晴らしさを実感しました。中国文明が長い歴史を持つだけあって、その高度さと緻密さ、スケールの大きさが顕著に現れており、観光地や資料館を訪れる度に受けた衝撃を今でも鮮明に覚えています。また、そういった歴史的な遺産を綺麗に保存・展示していることから、歴史や文化を風化させることなく後世に語りいでいくという姿勢が強く感じられ、先人の努力があったからこそ今私たちが中国について学ぶことができるのだということを感じました。

また、今回の訪中を通して、学生の方々や協会の方々をはじめとした多くの方々との交流が実現されましたが、全ての方々がとても親切で温かく、互いに拙い言語力でありながらも最善を尽くして交流しようとする姿勢が至る所で見られました。民族や言語の壁を越えた交流ができたことに感動したと共に、中国語を十分に話すことのできない私たちを盛大に歓迎し、大変素晴らしいパフォーマンスと素敵なプレゼントまで用意していただいたことに改めて深く感謝申し上げたいと思います。

現状に目を向けると、日本と中国に関わらず、政治的、歴史的な背景や利害関係から完全な友好関係を築くことができない国が数多く存在しています。特に中国に対しては未だに偏見が根強く、毛嫌いする人々が一定数いるのも確かです。しかし、今回の訪中を通して、そういった負の感情は無知から来るのではないかと強く感じました。もちろん、今回私たちが見た中国が全てではないですし、全ての中国人が今回交流した方々のような人であるとは限りませんが、それは逆も然りです。全てが完璧であることは不可能であるからこそ、マイナスポイントばかりに目を向けるのではなく、その他の素晴らしい部分にも大いにフォーカスを当て、互いを認め合い、違いを尊重していければ、せめて民間だけでもより良好な関係を築けるのではないかと感じました。実際に体感してこのような気づきを得られたことは、今後の異文化理解や多文化共生実現への大きな一助となるのではないかと思います。また、私自身も今まで以上に勉学に励み、中国の文化や歴史についての知識をさらに深めたいと強く感じました。そして、必ず再び浙江省及び他の中国の地域にも足を運び、学んだものを実際に自分の目で見て、中国という国についての理解を深めたいと思います。

最後になりますが、改めて今回の訪中に尽力いただいた全ての方々に感謝申し上げます。
大変ありがとうございました。

感想文

宇都宮大学一年 後藤凜

今回は初めての中国訪問及び海外渡航でしたが中国の浙江省の街の風景を見たり、現地の人や大学生との交流を通して、数えきれないほどの驚きがありました。

私はほとんど中国語を話すことができなかつたのですが、相手の中国人の方も何とか伝えようと翻訳機を使ったり、ジェスチャーを使いながら話してくれたり工夫をしながら会話を行いました。海外へ行くのは初めての経験であった私にとって、この経験は海外に対するイメージを変えてくれるものでした。また、浙江図書館を見学に行った際に、日本文化が好きだという女性が話しかけてくださり、「いつか日本に行きたい」と話してくれました。海外に日本文化を好きな人がいるのだと実感することができて、嬉しく思いました。

浙江省の観光名所を回った際に、様々な歴史を学ぶことができました。二日目に訪れた南湖では、中国共産党が秘密裏に話し合いを行うために、湖の上で船に乗りながら会議を行っていたという歴史を聞いたときはとても驚きました。五日目に訪れた孔子南宋家廟では、孔子誕生を祝う準備をしている風景が見られ、中国における孔子の存在はとても大きいのだと改めて認識することができました。私が今回触れた歴史は、今まで学んできた知識と合わせてもほんの一部でしかなく、もっと深く中国の歴史について学んでみたいと思いました。

現地の大学生と交流を行ったとき、少し緊張していたのですが、話してみるとみんな友好的で面白い人達ばかりでした。そこで、普段の大学生活について話したり、その土地おすすめのお土産について話したりして交流を深めることができました。また、彼らの趣味について聞いてみたところ、日本の作品のファンであるという人たちもいました。今までは、漠然と向こうの大陸の人であるという印象を持っていましたが、お互いの国のものが、それぞれ日常的に存在しているのだと思うとなんだか不思議な心地がしました。

今回の浙江省訪問で得た経験は、私の中にある中国の印象を大きく変えるきっかけとなりました。そして、中国という国が持つ魅力を直接目で見て、感じることもできたのはとても幸運なことでした。最後に、これからの日中間での交流をより深められるように私自身も努めていきたいと思いました。

まだ見ぬ浙江の顔

宇都宮大学国際学部 4年 酒巻大雅

はじめに、今回栃木県の学生や社会人を交えた浙江省訪問を企画して下さった栃木県日中友好協会の皆様、並びに私たちの訪浙を快く受け入れて下さった浙江省人民対外友好協会をはじめとする各市県の対外友好機関の皆様と浙江工業大学、浙江師範大学、衢州学院の皆様へ、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

浙江大学へ留学していた私ですが、訪れた4つの市の内嘉興、金華、衢州の3つはお恥ずかしながら今回が初めての訪問でした。中国留学中は重慶や哈爾濱など飛行機で何時間もかけて行く国内旅行に必死だったため、自分の住む浙江省という足元にちゃんと向き合っていなかったなと今回の旅で思い知らされました。今回の7日間の友好の旅を通して、皆様のおかげで浙江の新たな顔を見ることができたことをとても光栄に思います。

まだまだ記憶に新しい今回の訪浙とはいえ、旅程にそって思い出の全てをここに書き起こすと冗長になる恐れがあるため、私個人として印象深かったことを書かせていただきます。それは金華を訪れ、浙江師範大学で日中学生双方による贈り物交換の時でした。師範大生からの贈り物はキャップ付きのペンで、白地に青文字で「浙江師範大学」と記されている高級感溢れるものでした。そしてペンが収められた小箱をじっくり見てみるとなんと私の十八番である「青花瓷」の歌詞が。

帘外芭蕉惹骤雨 门环惹铜绿 而我路过那江南小镇惹了你

【訳】 簾の外の芭蕉の木はにわか雨を惹きつけ ドアノブは緑青の錆びを惹きつける
僕はあの江南の小さな町を通った時に 君のことを惹きつけたんだ

嘉興、金華、衢州はいずれも落ち着いた雰囲気漂う古い街でした。しかしこの歌詞にある通りいずれの街においても、雨に濡れ葉の一部が枯れかかっている芭蕉の木々や、古くから長い間街を見守り続けた家々の錆びついた壁やドアノブは、単に「古い」という印象ではなく一種の上品さを漂わせていました。長く杭州に住んでいた私にとってはもちろん杭州が最も印象深く住みよい場所ではありますが、西湖周辺などの有名観光スポットのような喧騒のない嘉興、金華、衢州の古き良き街並みを見て回ることはとても新鮮な浙江体験でした。私はまさに浙江内陸という江南の歴史的風情に惹きつけられたわけです。

最後に少しだけわがままを書かせていただきます。今回は浙江省の北部から中央内陸にかけての旅でしたが、次回は舟山、寧波、台州、温州、麗水などの沿海部から南部にかけてカーブを描くように旅できればいいなと思っています。それらの場所にもきっと、友好的感情を以て私たちをあたたかく迎え入れてくれる方々がいるはずです。今回は山、畑、村、古街といった落ち着きのある表情を見せてくれた浙江ですが、次はどのような顔を見せてくれるのでしょうか。今から楽しみでなりません。

訪中レポート

千葉大学 4年 仲島大貴

何よりもまず、中国訪問の機会を設けてくださった栃木県日中友好協会、我々を迎え入れ、歓待してくださった中国の諸政府、諸大学ならびに訪問団の皆様へ深く感謝申し上げます。

私にとって今回の旅は、はじめて日本を脱し、はじめて中国という異国の地を踏む、まったく新鮮なものでした。

恥ずかしながら、私自身は中国語に関してはまったく明るくなく、当国の文化や地理、歴史についても聞きかじった程度の知識と漠然とした憧れのイメージしか持ち合わせていませんでした。しかし、そのおかげと言うべきでしょうか、はじめての海外であることとは別に、実に新鮮で色濃く、得難い経験を得られたと感じています。

近代的な都市において、摩天楼と呼ぶに相応しい規格外のビルが連なる様はおよそ日本で見ることではできず、圧巻という他に言い得ぬほどのものでした。その一方で、そんな都市から少し離れた、あるいはそんな中に残された一際存在感を放つ伝統建築にも強く心を惹かれたことも事実です。特に、闇夜に燦然と佇む金華古城には一層昂奮したことを覚えています。専攻分野の延長で仏教美術に関心のある私にとって、黄金で荘厳された仏像が壁一面に鎮座する在り様、頂上で多面、一様に彫られた釈尊、経典を側面に鑄られた梵鐘や眼下の街中に咲くネオンの蓮などは好奇心を強く刺激しました。立っている場所は伝統建築、遠くに見えるのは光り輝く近代的夜景。その逆もまた然りですが、そんな渾然一体とした美しさを垣間見ることができました。

私に関わった人もまた、みな魅力的でした。衢州での交流には参加できませんでしたが、浙江工業、浙江師範両大学の生徒さんたちは日本語が達者であられ、自国の文化にも精通しているため、中国の生活の実際をよくうかがい知ることができました。学生だけでなくスーパーやコンビニ、河坊街や義烏市場の店員の方々も、話を通じてみればよく教えてくれたり、軽い冗談で破顔一笑したりと、実に人情味溢れる方ばかりでした。名所の観光に重きを置いていた私にとって、こうした人との交流も旅の醍醐味なのだと感じさせられた瞬間です。

予てより杭州西湖に憧憬を抱いていた私は、訪れることができたというだけで言い得ぬ嬉しさを感じていました。それでも欲は際限のないもので、さらにあの周辺を逍遙してみたいという思いが強くなりました。体調を崩してしまったために6日目を終日ホテルで過ごしたことも、ひどく悔やまれてなりません。そんな不完全燃焼を抱え、一方で中国に更なる興味を持った私が再び中国を訪れたいと強く願うのは、全く以て自然なことだと思います。

新たな場所へ行くたび、新たな人と話をするたび、新たな文化を目にするたび、いつも旅愁を感じていました。こうした体験を通じて、「楽しかった」の一言だけでは到底済ませられないということは、旅中に幾度となく思っていたことです。今回の訪中で、僅かにあった中国への興味・関心の水準が大きく引き上げられたことを実感しています。私個人ができることなど限られるでしょうが、ひっそりと中国に関する歴史や現状を学び続け、ひっそりとでも日中友好

の輪を広げ、両国の魅力が齟齬なく、少なくとも日本人に対して中国のそれが伝わればいいな、と切に願っています。

むすびに、今回の中国訪問でお世話になったすべての方に、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

栃木県青年友好使者訪問団に参加して

浙江大学博士3年 考古学専攻 成田博熙

この度、栃木県日中友好協会白石雄治会長を団長とする栃木県青年友好使者訪問団一行34名は浙江省人民対外友好協会の招きにより、6泊7日間の日程で浙江省を訪問した。私と手塚君が現地参加で訪問団の一員となった。この訪問では、嘉興市、杭州市、義烏市、金華市、開化県、衢州市という6つの都市を巡り、3つの大学との交流を含む充実した内容で組んで頂いた。訪問日程は、中国の豊かな文化と歴史を体験する機会に溢れ、様々な経験を通じて浙江省の多様な魅力に触れることができた。

特に印象深かったのは、今回初めて訪れた金華市と衢州市での体験だった。両都市とも悠久の歴史を持つ古都であり、その歴史の重みと現代的な発展が融合した姿に深い感銘を受けた。金華市は予想以上に発展した街で、その都会的な雰囲気には驚いた。高層ビルが立ち並ぶ現代的な街並みと、北宋時代に建てられた万佛塔のような歴史的建造物が共存する景観は、中国の急速な発展と深い歴史の調和を象徴していた。特に夜になると、ビル群のきらびやかな照明が作り出す夜景は息を呑むほど美しく、現代的な都市の魅力を十分に感じられた。

衢州市もまた、その悠久の歴史が魅力的だった。「四省通衢」と呼ばれる重要な交通の要衝として栄えてきた衢州市の歴史は、街の構造や建築物に色濃く反映されていた。孔子廟の見学中に、孔子生誕2575年の祭典で76代目の子孫に会えたのは、この地の深い歴史と文化を肌で感じる貴重な機会となった。また、中国の国営テレビ CCTV の取材を受け、栃木県の足利学校と論語の関係について紹介できたのも思いがけない経験だった。さらに、衢州市が四川省に次ぐ辛い料理の街であることを知り、その独特の食文化に触れられたのも新鮮な発見だった。この食文化も、古くからの交易の歴史が生み出した衢州独自の伝統なのだと感じた。

この訪問で最も印象に残ったのは、浙江工業大学、浙江師範大学、衢州学院の学生との交流だった。このような交流は、お互いの文化を深く理解し合える非常に重要な機会となった。それぞれの交流の中で、言語や文化の違いを超えて互いに理解を深めることの重要性を強く感じた。まさに日中友好の架け橋となる重要な一歩だと実感していた。6泊7日間という短い訪問だったが、私にとって非常に貴重な経験となった。

今後も、この経験を活かして、栃木県と浙江省の魅力を積極的に発信し続けたい。そして、若者同士の交流をさらに促進し、互いの文化理解を深める機会を創出していきたいと思う。最後に、このような素晴らしい貴重な機会を提供してくれた浙江省人民対外友好協会の皆様と栃木県日中友好協会の皆様にご心より感謝を申し上げます。謝謝！有り難う！

浙江省訪問を終えて

手塚洋介

まず最初に訪問団を紹介してくれた成田博熙さん、諸々の手続きを手伝っていただいた柳さんをはじめとする皆様、白石団長、滝沢理事長をはじめとする日中友好協会の皆様、緊張していた僕にあたたかく声をかけていただき、観光、交流を本当に楽しい時間にしてくださった友人の皆様は今一度感謝を申し上げます。

この 7 日間の訪問において僕たちは中国浙江省の嘉興市、杭州市、金華市、衢州市を訪問させていただきました。それぞれの地域での学生たちとの交流。特色、歴史のある街、美味しい料理。時間の流れに沿いその風景を変える各街の景色。思い出せば切りがないほどに多くの思い出がこの 7 日間でできました。僕はこの訪問全体を通して楽しかったということ以外にもう一つ考えていることがあります。この訪問では浙江省の人々の豊かさ、建物の大きさ、土地の大きさ、測りきれない歴史の深さを知りました。そしてそのすべてを理解するには僕はまだまだ勉強が足りないことに気づきました。言葉においても、歴史においても僕はこの訪問を糧にもっともっと勉強しなければいけない、そんなことを思いました。この気持ちを忘れないようこれからも励んでいきたいと思えます。改めてこのような機会を作っていただきありがとうございました。